



ダミーの傷を腕に着け止血法を習得

# 救う技と倒す技 教え合いました

～消防局と連携し  
研修会を開催～

昨年十二月十二日、組合会議室において、高崎市等広域消防局とたかさき消防共同指令センターの職員を講師に迎え、本組合職員を対象とした緊急時通報訓練を実施しました。

訓練では通信デモ機を使用し、実際の通報を想定して状況報告や負傷者の状態説明、位置情報の伝達方法を体験しました。

過去の事故事例を取り上げることで、現場で起こり得る事態をリアルに感じながら学ぶことができました。

## ◆GPSの位置情報は

### 有効な手段

特に山での事故では「どこで発生したか」を正確に伝えることが大きな課題ですが、スマートフォンのGPS機能を活用し位置情報を伝えることが、今後の対応に有効であることが確認できました。

## ◆身近にあるもので圧迫止血

応急処置訓練では「圧迫止血法」について、実技を交えた指導を受けました。山での事故を想定し、三角巾がなくてもタオルやビニール袋を代用できるなど、身近にあるものを活かした



緊張しながら司令室へ通報

## ◆今度は組合職員が伐倒指導

応急対応の方法も紹介されました。実際の場面をイメージしながら体験でき、非常に実践的な学びとなりました。

後日、今度は本組合職員が講師となり、業務でチェーンソーを使用する消防局職員を対象に、「伐倒訓練」を実施しました。屋外で行われた研修では、ソーチェーンの目立てや基本的な操作方法について、座学と実技を交えて指導が行われました。

## ◆チェーンソーの切れ味に驚き

「チェーンソーのバーが挟まらない切り方」等の質問に応じる形で、安全な作業手順を解説。目立ての終わっている本組合のチェーンソーを使った伐倒体験では、その切れ味に、参加者全員が驚いていました。

## ◆連携を通じ対応力向上

今回の訓練を通じ、消防機関との連携の重要性を実感するとともに、職員一人ひとりの危機対応力向上につながりました。今後も継続して訓練を行い、現場での安全確保に努めてまいります。



森林整備課職員がチェーンソーによる伐倒を指導